

町職員を再募集します

募集職種 ● 一般事務・4人程度／保健師・1人

受験資格

- 昭和58年4月2日以降に生まれた人
- 学校教育法による大学、短期大学(専門学校等で就学2年以上を含む)、高等学校を卒業した人、又は令和2年3月までに卒業する見込みの人
- 日本国籍を有し、地方公務員法第16条に規定する欠格条項に該当しない人
- 保健師の受験は、保健師免許を有する人、又は令和2年3月31日までに保健師免許を取得する見込みの人(免許を取得できなかったときは採用されません。)

試験日

【第1次試験】1月26日(日)／教養試験、適性検査
 【第2次試験】2月下旬(予定)／作文試験及び面接試験

試験場所 ● 小鹿野町役場・小鹿野庁舎

採用予定時期 ● 令和2年4月1日(予定)

応募書類 ● 市販の履歴書に写真を貼り必要事項を記入のうえ、小鹿野庁舎・総務課へ郵送又は持参してください。

受付期間 ● 12月2日(月)～27日(金)8:30～17:15
 (土・日は除く。)

※郵送の場合は、12月27日(金)の消印まで有効。

問合せ ● 小鹿野庁舎・総務課 ☎75-1221

**町長の
まち・ひと・しごと
魅力発信**
～ 事業所訪問 vol.21 ～

「株式会社飯塚製作所」

町内には、優れた技術を持った会社が多く存在します。事業所の持つ技術や魅力を町長自ら訪問して、目で見、お話を伺い、住民に情報発信する「事業所訪問」を連載します。



生産工程の説明を受ける森町長

社で考案されました。ボルトヘッド部分のシンボルマーク「OGANO」のロゴは若手社員の精巧な技術力によるものでした。

創業から20年。創業者としての苦勞を惜しまない誠実な人柄が成功へと導き、ものづくりへの熱意と信頼のもと、これからも社員と共に歩んでいく、未来を見据えた企業であると感じました。

わが社の主力製品

当社の製品は、自動車・船舶・航空機・建設機械・医療機器・事務機・半導体製造設備・燃料電池等に利用する精密機械部品です。すべて国内の受注で、大手物流メーカーのコンベア部品や透析の医療機器など、多種多様な業界の製造加工を手掛けております。

ここに自信あり

一製品につき、材料供給から製品完成までの全加工工程を自動化し、研磨が不要なレベルまで旋盤加工で仕上げることができる高いプログラミングの技術力を有しています。また、技術の継承に力を入れ、生産体制の安定化を図ると共に、最新の輪郭形状測定器、画像寸法測定器等の各種測定器を導入し生産製品の品質向上を図っています。高品質・小ロット多品種・短納期対応等によりお客様の要望を実現しております。



飯塚社長(左) ▶

会社概要

- 代表者** 代表取締役 飯塚勇治
- 従業員数** 10名
- 創業** 1998年
- 所在地** 小鹿野町小鹿野2381-1
- 電話** 0494-75-0769

町長の見て・聞いて・話して

第21回の事業所訪問は、10月16日に株式会社飯塚製作所を訪問し、飯塚勇治社長にお話を伺いました。

株式会社飯塚製作所は、平成10年(1998年)、小鹿野町で精密機械器具部品の製造会社として創業し、平成17年(2005年)、西秩父商工会の助言を受け、現所在地に本社を設立されました。

創業当初からお客様より難題な要望を受けており、昼夜問わずの作業は常にあったとのこと。この仕事への熱量があるから今があると、しみじみと仰っていました。

精密機械部品の製造加工を手掛けているため、工場内は機械の加工精度維持のため、空調を整備し常に一定温度に維持されておりました。各NC自動旋盤にはオイルダクトを外付けしていることにより、床、壁へのオイル飛散がほぼないため、においや汚れを感じさせないクリーンな環境でした。

若手社員の定着率は高く、定着しているのは社長の社員への思いと期待が社員の志気を高めていること、そして、魅力ある職場環境と社員教育の手厚さによるものと感じました。



整備された工場内

当町の「オートバイによるまちおこし事業」のナンバープレート用のボルトは同



ナンバープレート用のボルト

こんにちは。町長です。



今年を振り返って思うこと

月日の経つのは早いもので、師走を迎え、あとひと月で今年も終わります。今年5月1日から元号が令和に代わり、平穏な年であることをお祈りいたしました。この一年町は大きな災害等に見舞われました。

まず、9月17日に町内で豚コレラが発生し、これは同月13日に秩父市内で発生したのに引き続き県内で2例目となりました。その結果、1300頭を超える豚が殺処分されました。県も全庁を挙げてこれに対応していただき、町も道路封鎖や対応基地の設置など県に全面的に協力いたしました。周辺地域住民の皆様にも協力いただき、スムーズな感染防止に向けての防疫作業が実施出来ました。大野県知事もいち早く対応していただき、国に働きかけなどを行い、国も豚コレラワクチンの接種を実施する方針を決定し、県内では既にワクチン接種が行われました。県の早い対応が国を動かし、被害を受けなかった養豚農家が守られることにつながりました。被害を受けた養豚農家には、お見舞いを申し上げます。

また、10月11日から12日にかけて襲来した台風19号の記録的な大雨により、町内でも甚大な被害が発生しました。家屋の被害をはじめ、道路、橋梁、河川等の被害は町内各所で多数発生いたしました。町でも避難所を7箇所開設し、最大避難者数は506人を数えました。両神地区では、道路崩壊により孤立世帯が発生し

ましたが、県の早い対応で仮復旧が行われ、孤立世帯も2週間程度で解消されました。幸いにも死傷者が発生しなかったことが救いではありました。被災をされた皆様にお見舞いを申し上げますとともに、一日でも早く普段の生活に戻れるよう町でも全力を挙げて対応させていただきます。

この台風時の対応では、多くの町民の皆様は町の避難勧告・指示が発令される中で冷静な判断をしていただき、早めに避難所への避難をしていただいたこと、また、町内のある地区では日ごろからの話し合いの中で避難する際の方法等が確立されており、自家用車の乗り合わせで避難所へ避難された方もいらっしゃいました。やはり、普段から防災意識を高め、まず、自分で出来ることは自分で、次に周りの助け合いの中での協力、支援、そして最終的には公助として町等の支援を受けることが大切であると思います。言い古された言葉ではありますが、「自助、共助、公助」の意識の徹底は重要です。

ところで、今年ラグビーワールドカップが日本で開催され、熊谷ラグビー場でも試合が行われました。日本チームは大活躍し、初めてベスト8まで進出しました。日本チームのスローガンは「ONE TEAM(ワン チーム)」でした。困難を乗り越えていくためには、お互いに理解し尊重し合うことが大切であることを日本ラグビーから学ぶことが出来ました。

小鹿野町長 森 真太郎